

---

# はだかのおうさま

彩彦

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

はだかのおうさま

### 【Nコード】

N6503D

### 【作者名】

彩彦

### 【あらすじ】

裸の王様は思う。私は間違っていない。間違っているとすれば、私では無くオマエなのだから。

好む好まざるに関わらず、人の気持ちは透ける事がある。

つかれていた。自分の駅についた時、エスカレーターすら億劫になりエレベーターを使った。降りる時に、目の前の女性が動かない。彼女はチラリとこちらを見る。

私が気づくと黙って「開」を押し続ける。先にでろという意味だ。そして困った事に私は考えてしまうのだ。

オマエが先に出ても私は暗い夜道、オマエをストーキングはしないのに。

どうにもひねくれているとは自分でも思う。

軽く頭を下げながら、私は歩き出す。

私にできるのはもはや、早く家に帰ろうとする男を装っただけである。なんとも惨めだ。

私はストーカーではないにも関わらず、疑いをかけられ、その男が同じ立場であつたならとるであろう行動で帰る。

ああ、何故私はこうなってしまったのだろうか。

私には爽やかさというものが欠落している。

目に光がはいっていない。

澁刺とした口調で喋らない。

ピンと背筋を伸ばさない。

軽やかな足取りをとらない。

その結果が先の被害妄想に繋がるのだ。

いつでも自分を客観的に見るとため息が漏れる。

家に着くと自慰をした。

文字通りの意味だ。

とにかく怠惰にひたりたかった

ふと、頭に前の彼女がよぎる。

三年前に別れたのに未練たらしくも考えてしまう。

必至に振り払うと今度はエレベーターの女がうかんだ。  
妄想の中ではいつだって、私は「王」であった。

二つの意味で「裸の」がつく。

間違っていないと必死に口を開くのだ。自分に。

今日あった女は謝っていた。

そんなつもりは無かったと言った。

しかし私は止まらなかった、止められなかったのだ。

裸の王様のように。

事が終わるといつも罪悪感が襲う。

名前も分からない女に羞恥心が沸く。

今度からは偽名でもいいから名前のついた女にしようと思った。

嫌悪感と格闘していると電話が鳴った。

前の彼女からだった。

「ひさしぶり。」

本当に久しぶりだった。最後に喋ったのは一年前である。

彼女のひさしぶりは、

漢字を使ったような苦しさは無く。

片仮名のような硬さも無かった。

私は意を決すると口を開いた。

「久しぶり。」

彼女は少し間を開けた後に

「・・・泣いてるの？」と言った。

現実の私は裸の王様になれない。

好む好まざるに関わらず、人の気持ちは透ける事があるから。

**（後書き）**

この話はノンフィクションだったりします。  
誰の話かというと・・・（ニヤリ）。

誹謗中傷お待ちしております。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6503d/>

---

はだかのおうさま

2010年10月14日13時25分発行